

大平町

### Bコース「鯨ヶ丘を街歩き」

コース作成：まちかど案内人の会

常陸セントラル  
ゴルフ練習場

約 5.2km

START常陸太田市観光案内センター

- ① 道路元標
- ② 遍照寺
- ③ 梅津会館
- ④ 若宮八幡宮
- ⑤ 太田故城(舞鶴城)の碑
- ⑥ 日下部父子の碑
- ⑦ 太田一高旧講堂
- ⑧ 太田落雁
- ⑨ 観蔵井
- ⑩ 川又薬局
- ⑪ 旧稲田屋
- ⑫ 浄光寺
- ⑬ 法然寺

GOAL常陸太田市観光案内センター

- Aコース
- Bコース
- Cコース
- Dコース
- おすすめ



7 修理中  
県立太田一高旧講堂



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



5 太田小学校内



4 若宮八幡宮



12 山の崎ヶ丘の街並み



2 遍照寺



1 道路元標



5 太田小学校内



4 若宮八幡宮



12 山の崎ヶ丘の街並み



2 遍照寺



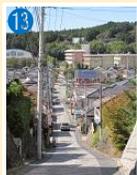
1 道路元標



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



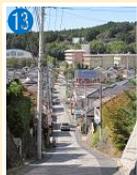
7 修理中  
県立太田一高旧講堂



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



5 太田小学校内



4 若宮八幡宮



12 山の崎ヶ丘の街並み



2 遍照寺



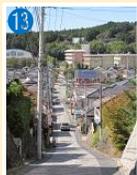
1 道路元標



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



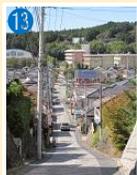
7 修理中  
県立太田一高旧講堂



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



5 太田小学校内



4 若宮八幡宮



12 山の崎ヶ丘の街並み



2 遍照寺



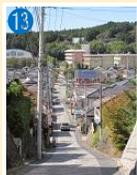
1 道路元標



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



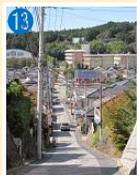
7 修理中  
県立太田一高旧講堂



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



5 太田小学校内



4 若宮八幡宮



12 山の崎ヶ丘の街並み



2 遍照寺



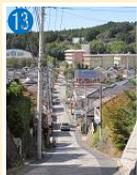
1 道路元標



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



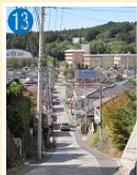
7 修理中  
県立太田一高旧講堂



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



5 太田小学校内



4 若宮八幡宮



12 山の崎ヶ丘の街並み



2 遍照寺



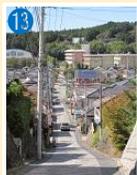
1 道路元標



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



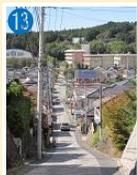
7 修理中  
県立太田一高旧講堂



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



5 太田小学校内



4 若宮八幡宮



12 山の崎ヶ丘の街並み



2 遍照寺



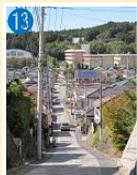
1 道路元標



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



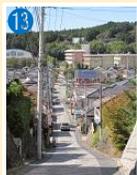
7 修理中  
県立太田一高旧講堂



6 太田小学校内  
日下部父子の碑



3 梅津会館



13 十王坂



10 立川醤油店



2 遍照寺



1 道路元標



5 太田小学校内



4 若宮八幡宮



12 山の崎ヶ丘の街並み



2 遍照寺



## ① 道路元標

大正8年(1919)11月5日勅命460号の旧道路法施行令第9条第1項「道路元標ハ各市町村ニ一箇所ヲ置ク」により、全国各地で設置された。場所は、府県知事が指定する事となっており、大正9年3月22日に茨城県告示代17号によって設置場所が指定され、旧常陸太田市内に3ヶ所が指定された。

## ② 杉元山光明院遍照寺

佐竹行義の北の方であった二階堂頼綱の女大檀那で、鎌倉大蔵山の十一面観音を遷仏し、遊行上人二代の真教上人が、応仁二年(1468)に開基した時宗の寺である。徳川光圀公は元禄十一年寅九月、時の住職を呼んで光明の寺号を廃して遍照寺と改め余地六石八斗五升六合を賜った。火災にあって天保年間廃仏毀釈の厄に遭ったりして旧記の依るべきものがない。古図によると正門は今の本堂の前辺りから真直ぐ東方に抜けていたらしい。本尊は明治23年群馬県太田市の大光院新田寺から分霊したものである。毎月陰暦8日は香龍上人の縁日で賑わったものです。よって寺の通称名になる。

## ③ 梅津会館（郷土資料館本館） 国指定登録有形文化財

昭和11年(1926)梅津福次郎翁の寄付35,000円により太田町役場として建築。昭和53年7月まで常陸太田市庁舎として利用されている。その後、昭和55年に旧庁舎の外観はそのまま遺して、内部を改装し郷土資料館とする。平成11年国指定登録有形文化財となる。設計は小林工芸所小林豊次、施工は山口子之松、長岡造形大学非常勤講師金田ミチル氏の調査により、創建当時の意匠と建築技術が、ふんだんに用いられていることが明らかにされた。旧三の丸庁舎との共通点が見られる。梅津福次郎は、安政5年(1858)、太田村下井戸の生まれ、23歳の時に、函館に渡り、巨万の富を築く。

## ④ 若宮八幡宮

応永年間(1394~1428)佐竹十三代義仁公孀養子として鎌倉より入府の祭、鶴岡八幡宮の御分霊を舞鶴城中に奉斎し、以降佐竹氏代々の祈願所とした。当社勧請の折、鶴子供奉して来て、祭祀を司る。舞鶴城の由来とも云われる。元禄5年(1692)光圀公、太田一郷の鎮守と定め、宝永5年(1708)中山備前守信敏が社殿を造営し今地(二の丸跡)に奉遷。稲荷神社の創祀は、太田太夫通延が初めて太田城を構えた頃に遡ると考えられ、1千年余の歴史を閲する。光圀公、ご神体の石剣を拝し感激、奉幣する。若宮八幡宮の鳥居をくぐると、樹圍6m以上のケヤキ6本が参道の左右に威容を誇っている。鳥居のすぐ右側にある大ケヤキは日当たり良く生育状態が他の5本より良い。樹圍は目通り8m、根本12.5m、樹高も35mあり、樹勢極めて旺盛である。樹齡640年とありますが、800年と云う人あり。大ケヤキは昭和46年12月6日県指定。

## ⑤ 太田故城

起源は明らかではないが、天仁2年(1109)に藤原秀郷の子孫が下野より太田の地に来て、太田太夫と称して城塞を築いたのが始まりといわれている。馬坂城の佐竹隆義は、通延の孫通盛を服属させて小野台地(現瑞龍中学校敷地)に移し小野崎氏を名乗らせ、自らは太田城に移り、さらに城の規模を拡大した。入城の日に城の上空に鶴が浮かんだので舞鶴城と呼ばれたが、水戸の刀工、直江助信の短刀銘に「於青龍城明治2年6月」とあるので青龍城とも呼ばれた。天正18年(1590)佐竹義宣が水戸城に移るまでの約470年間は太田城を本拠地として四方に勢力を伸ばした。佐竹氏は秋田に国替えとなり、太田城も廢城となった。江戸時代、城の一部は太田御殿と呼ばれたが、文化元年(1804)焼失した。本郭は、太田小学校の一带であり、二の郭は内堀町から八幡宮、三の郭は栄町の大部分で北側が搦め手と呼ばれる。県立太田第一高等学校の敷地の大部分が北郭で、帰願寺の北側が駒の櫓であった。

## ⑥ 日下部父子の碑

天保8年(1837)9月寺町西掘(現在の中城町)に水戸藩の郷校「益習館」が開設された。初代館守が薩摩藩浪人の日下部連である。水戸領伊師村(旧十王町)に住み、塾を開き子弟の教育に当たっていたが、水戸藩にその学識を認められ館守となった。連は弓術や詩文にも優れた教育に尽力した。天保11年(1840)10月病没72歳。長男伊三治は父の後を受けて益習館幹事として、益習館の名声を高めた。さらに、維新回天の偉業に参加して功績を残した。その子祐之進は、父伊三治と国事に奔走し、安政の大獄にあい父子共に獄死した。昭和9年(1934)9月、益習館跡に日下部父子の頌徳碑が建てられ、功績を今に伝える。伊三治と東郷平八郎との関係は、長男伊三治の三弟に松岡領主中山氏に仕えた高橋種英(後に渡と改名)がいる。父連は故あって脱藩後、斉昭公に認められ仕える。長男伊三治は国事に奔走、水戸藩と薩摩藩のかけし役として、幕末動乱期に活躍。碑の題字は平八郎が署名、碑文は徳富蘇峰撰並書。伊三治の一人娘松子は薩摩藩有村治左衛門長兄兼敬と結婚。日下部の源姓である海江田に改姓、長女テツ子は東郷平八郎と結婚。

## ⑦ 県立太田一高旧講堂（国指定重要文化財）

本校は明治33年(1900)4月1日、茨城県立水戸中学校の太田分校として設置された。当初は瑞町の浄光寺庫裏を仮校舎として開校。同35年4月、

茨城県立太田中学校と改称し、翌36年に本館2階建校舎と体育館が完成し移転。明治37年(1903)12月講堂が完成した。この講堂が現在国指定重要文化財に指定されている建物である。講堂は、桁行20.9m、梁間14.5mの本体に、正面3.6m四方の車奇を付設している。両側面中央に出入り口を設け、背面に御真影奉置所が突き出している。木造、平屋建、切妻造、棧瓦葺建ての高い建物で威風堂々たる外観の洋風行動である。外壁は下見板張、窓は縦長の上げ下げ窓として窓上端揃いに水平蛇腹を回し、その上に半円形の窓欄間を設ける。車寄せはエンタシスの柱にコリント風の柱頭飾りを載せ、屋根にはバルコニーの手摺りを設ける。内部は、玄関ホールと大ホールの境に三力所の扉を設ける。大ホールの床は正面の演壇に向かって次第に低くなるように高さが三段階になっている。演壇中央に設けられた御真影奉置所は、その正面をオーダー付の柱やアーチを用いた古典的な造りとなっている。明治建築の質の高さを十分に示しており、昭和51年(1976)12月に国指定となった。旧制中学校の講堂としては全国的にもほとんど類似がなく重要な遺構といわれる。本講堂の設計者は、県立土浦中学校(県立土浦第一高等学校)本館の設計者でもあった駒村勤治茨城県技師といわれている。

## ⑧ 太田落雁の碑 水戸八景の一つ

栄町東側崖の中腹、「観蔵井」の真上にあり、花崗岩の碑で、碑の大文字は烈公の書で、三文字は隷書で「太」の字には古典文字が用いられている。天保4年(1833)、水戸九代藩主徳川斉昭(烈公)が領内の景勝地を巡視し選定したもの。水戸八景選定の大きな目的は藩内の子弟に八景めぐりをすすめ、自然鑑賞と心身の鍛練とを図る文武両道の修練に資するところとさせたもの。「さして行く 越路の雁の越えかねて太田の面にしばしやすらふ」

## ⑨ 観蔵井 太田七井の一つ

古來名水として付近住民に親しまれ、飲料水として利用されてきた「太田七井」の一つです。「太田落雁の碑(水戸八景の一つ)」の真下にあります。観蔵井は俗に「お茶の水」と呼ばれ、水戸の藩主が太田御殿への来遊の節は必ずこの名水を用いたと云う。現在も付近の人が利用している。七井とは紫岸井(栄町駒作)観蔵井(栄町)猿の井(内堀町)金が井(金井町)十王井(寿町)下井(水崎一町)滝の井(水崎二町)のことです。鯨ヶ丘の崖下には湧水が多く、水を通さない凝灰岩の上に砂礫層があり、その砂礫層に地下水が溜まり、そこから水が湧くと云う。

## ⑩ 川又薬局 店蔵：大正初期の建築

慶長5年(1600)創業、現在は17代目、現在営業している企業としては茨城県で2番目に古い。創業時は「坂本屋」だったそうです。水戸藩の命令により、私財を投じて、「桃源焼」と呼ばれる焼き物の生産を始めた。寛政13年(1801)の御用留に残っている。徳川光圀の影響を受け、農民救済の家伝業「赤茂伝」が生まれ、現在に至る。「赤茂伝」は五種類の生薬を調合、女性の「血の道」に効く漢方薬で当主が毎日調合作業を行なう。

## ⑪ 旧稲田屋赤煉瓦三階建袖蔵

この赤煉瓦蔵は、明治43年にこの地で酒造業を営んでいた「稲田屋」の稲田敬造氏が建造した。平成21年、筑波大学によって調査が行われ、建築にあたっては当時の金井町在住の宮大工棟梁斎藤辰吉氏。同時期に建てられた旧制太田中講堂に影響され、外観や内装に意匠を凝らした。往寺は隣地に土蔵二階の商家があり、敷地内には三つの井戸跡や裏の門柱、煉瓦屏が残っており豪商の姿が想像出来る。明治期の三階建て赤煉瓦蔵は珍しい。

## ⑫ 引接山大善院浄光寺 宗派：時宗 総本山：清浄光寺(神奈川県藤沢市)

創建は正中元年(1324)8月15日。開山は時宗中興の祖、四代吞海上人。時宗は一遍上人によって建治2年(1276)に開かれている。その総本山の遊行寺と云われている清浄光寺は浄光寺創建の翌年に吞海上人により開山されている。一時期、時宗の総本山の地位に在った。太田城主第九代佐竹貞義が母(二階堂頼綱の女)の冥福を祈念する為に建立する。戒名大善院殿引接浄光大禪定尼(俗名萬)、寺はその戒名より、山号、院号、寺号をとる。以後、佐竹氏の菩提寺の一つとなり、十七代義篤、二十代義昭並びにその室と子女が埋葬される。慶長7年(1602)佐竹氏秋田移封の際に全て持ち去られる。寛永3年(1626)正月15日に火災にあい、本尊と開山上人の木像だけを残し焼失する。元治甲子(1864)天狗党と戦う二本松藩士兵の本陣となる。明治2年廢寺となるが、同15年再興される。

## ⑬ 圓覚山称名院法然寺

延元元年(1336)に蓮勝房永慶が太田城主十代佐竹義篤の保護を受けて開創した寺。浄土宗鎮西白旗派。蓮勝房永慶は太田城主五代佐竹義重五子重氏として弘安2年(1279)鎌倉佐竹屋敷に生まれ、元応2年(1320)に鎌倉材木座の光明寺寂恵良曉に入門し、本宗六代の法燈を継いだ人である。当時の基礎を築き、太田地方の浄土宗発展の為に尽力した。その後、佐竹、小田両家の合戦で寺も荒廃しましたが、天文年間(1532~1555)十九代佐竹義重家臣田中越中守重氏が再建、常福寺(旧瓜連町)の十二世朱海を招いて中興開山とした。本尊は阿弥陀如来像で、鎌倉時代の藤原定朝の作と伝えられている。